ラリグラス・ジャパン News Letter

#06
2022
3月号

コロナ禍にあっても季節は巡る。
制約が多い暮らしの中で、子どもたちに楽しんでもらうため、行事を欠かさないマイティ。
10月はダサイン祭（写真上）、12月はクリスマス（写真右）を祝った。

花の香りが春風に乗って運ばれるこの頃。未だコロナ禍の影響で落ち着かない日々が続いていますが、皆さま、お変わりなくお過ごしでしょうか。

支援先も引き続き厳しい状況にあります。現地訪問できない中、昨年末、NDWSを介し、長年、支援してきたマヘンドラくん（31歳）の訃報が届きました。

出会いは彼が12歳の時。足に障害があり、カトマンズ近郊の山頂の家から、ほとんど外に出ることなく暮らしていましたが、手術費を支援し、松葉杖を使って歩けるように。学校にも通えるようになりました。後に機械いじりの好きな青年に成長。訪問時には必ず顔を見せてくれましたが、近年、重い腎臓病を患い、透析を受けていました。腎臓移植を勧められるも、ドナーがみつかりませんでした。

そして昨年秋、病状が悪化。手術を要するとの診断でしたが、白血球が少なく、輸血を受けて経過を見ることに。なんとか持ちこたえてほしいと願っていましたが、12日17日、息を引き取りました。

亡くなる一週間前、彼は私たちへの言葉を弟に託してくれました。

「今世ではもう一度会うことはできないでしょう。だから伝えてほしい。苦しい時、愛と救いの手を差し伸べてくれたラリグラスの皆さんに、大きな感謝を。本当にありがとうございました」

私たちの訪問を心待ちにしてくれていたマヘンドラくん。訪ねられなかったことが悔やまれます。どうか安らかに。

認定NPO法人 ラリグラス・ジャパン
〒108-0072 東京都港区白金3-10-21　TEL&FAX 03-3446-2193
E-mail：info@laligurans.org　http://www.laligurans.org

現地活動報告　マイティ・ネパール

昨年9月のピーク以降、減少傾向にあった新型コロナウイルスの感染者数だが、昨年末から増加に転じ、1月中旬以降は1日5000人を超える新規感染者が報告されるようになった。こうした状況を受け、政府は首都カトマンズと、これに隣接するラリトプール、バクタプールに、25人以上の集会の禁止や、1月11日～29日までの対面授業の禁止等の行動規制を発表。オミクロン株の感染も報告されており、さらなる感染拡大が警戒されている。

マイティも、マスク着用や手指消毒の徹底、来訪者の禁止など、感染予防対策に尽力している。テレサ・アカデミーも休校措置を取ることにした。3月には進級試験が控えているため、学習の遅れが懸念されるが、自習を促すなどして対応しているとのことだ。

度重なる行動規制により、ネパール経済は深刻な状況だ。失業者が溢れ、満足に食事さえできない人たちも増えており、「コミュニティ・キッチン・プロジェクト」（炊き出し）を実施して、支援活動を続けているそうだ。

経済が悪化して失業率が上昇すると、犯罪も増えるといわれている。マイティに報告される性犯罪も目に見えて増えてきているとのことだ。サムジャナさん（14歳）もその1人。幼い頃に母を亡くした彼女は、父親と叔父と暮らしていた。家事をするようにいわれ、小学4年生で退学した。美しく成長した彼女は、1年前、叔父に強姦された。父親の留守を狙っての犯行だ。その後も父親の不在時に凌辱を受けた。

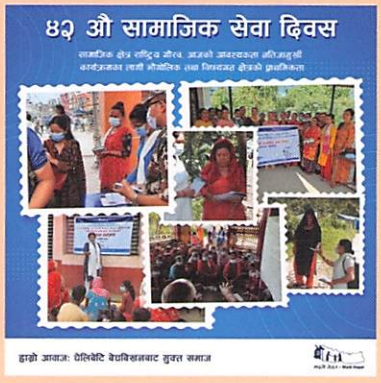
事実が知れれば叔父に殺されると恐れ、誰にも相談できなかった。だが、ついに苦痛に耐えきれなくなり、勇気を振り絞って父親に打ち明ける。激怒した父親は、警察に通報。マイティの弁護士が代理人となり、叔父の訴訟を起こした。サムジャナさんもマイティに保護されたが、妊娠4カ月であることが判明。心身に深い傷を負った彼女は、今もうつ状態にあり、丁寧なカウンセリングを続けているとのことである。

カウンセリングを受ける強制売春の被害者。
あどけなさが残る少女も

国内における強制売春も増加傾向にあるという。昨年10月、マイティは警察と合同で、カトマンズ郊外の一軒家から5人の少女を救出した。男女2人組が一般家屋を売春宿として運営し、少女たちに売春を強要していたのだ。「仕事を紹介する」と誘われ、被害に遭ったという。そのうちの1人は11カ月の乳児を抱えていた。売春宿で客の子を身ごもり、なすすべもなく出産したという。カウンセリングを受け、落ち着きを取り戻した少女たちは、現在、職業訓練を受けている。赤ちゃんは同じ敷地内にある児童保護センターで養育されているとのことだ。

こうした犯罪を抑止するため、昨年9月、マイティは各地で大規模な啓発キャンペーンを実施した。人身売買、児童婚、児童虐待等の犯罪に巻き込まれないよう注意を促すパンフレットを配布。地域の女性や学生を対象に、犯罪から身を守るためのオリエンテーションを行った。

新型コロナウイルス感染拡大により、2年近く職業訓練を停止していたヘタウダのプリベンション・キャンプだが、昨年初秋、新規感染者数が減少傾向に転じたことから、10月に17人の生徒が集められた。今期から、これまで行われてきた縫製技術の指導に加え、意思決定、リーダーシップ、トラブル時の処理スキル、保健衛生、セルフエンパワーメントテクニックなどのトレーニングも行われているという。人身売買犯罪に巻き込まれる要因は、貧困と教育の欠乏にある。4カ月と短い期間ではあるが、少女たちの健やかな未来のため、可能な限りの知識とスキルを身に着けてほしいと願っている。



各地で行われた啓発キャンペーン。週1回、
ラジオ番組「マイティ・コ・ネパール」を放送し、
危険に巻き込まれないよう呼びかけている

2年ぶりに再開されたトレーニング。
待ちに待った学びの機会に、意欲満々の生徒たち

レスキュー・ファンデーション（RF）

1月中旬現在、人口の約半数が2回目のワクチン接種を済ませたとされるインド。それでも昨年末から、首都ニューデリーやムンバイなどの大都市を中心に、新型コロナウイルスの感染が急拡大しており、1日あたりの感染者数が10万人を超える日が続いている。より感染力が強いとされるオミクロン株の感染も報告されており、デリーや南部タミル・ナドゥ州などは、感染拡大を防ぐため外出禁止を発令した。

行動が規制される中にあっても、厳重な感染予防対策を取りながら活動を続けてくれているRF。ムンバイにおけるレスキュー活動についていえば、9月に10回行い、35人の少女を救出、売春宿関係者13人を逮捕した。10月は4回、10人救出、7人逮捕。11月は3回、3人を救出。昨年1年間に救出した被害者数は、450人を超える結果となった。

救出した被害者のリハビリも着実に進められている。中でも予想以上の成果をあげているのが、ラリグラス・ジャパン'21リポートで報告した、雇用創出とエンパワーメントを目的としたプロジェクト「EKATRA」だ。スキルが高く、リーダーの資質を持つ女の子を「リーダー」または「トレーナー」とすべく養成する。後に彼女たちが、シェルターの仲間の指導にあたる。彼女たちには給与が支払われる。人件費を抑えられるうえに、外出制限が発令されたとしても、トレーニングの継続が保証されるというものだ。

昨年9月のプロジェクト開始以来、7人のトレーナーが誕生し、コンピューター技術、基礎英語、アクセサリー作り、縫製技術、バッグ作り、美容技術、ズンバ（フィットネス・プログラム）等の指導に携わっている。当初は意見の食い違いによるけんかもあったそうだが、次第に製作チームごとのまとまりが育まれていったという。そして11月、彼女たちのがんばりが評価される機会がもたらされた。お祭り期間中、ムンバイの至る所で展示会が催される。ステーションモール協会主催の展示会もその一つ。そこに招待され、女の子たちの作品が並べられたのである。みんなとても誇らし気だったそうだ。これが励みとなり、プロジェクトはさらに活発化したそうである。今後は「トレーナー」から「リーダー」へと成長するよう、トレーニングを継続するとのことだ。

バッグや絵画、アクセサリー等を出品した展示会

トレーナーとなった先輩の指導を受ける女の子たち

ネパール障害者女性協会（NDWS）

NDWSは、設立当初より地域に根ざしたリハビリテーション（CBR）活動を実施してきた。CBRとは、世界保健機関（WHO）が提唱し、世界的に取り組まれてきている活動で、地域の障害のある人々とともに、地域の資源を活用しながら、当事者の能力を高め、社会参加のための平等な機会と権利を確保するほか、地域社会の障害理解促進に努め、障害のある人々が生活しやすい環境づくりに取り組むための戦略の一つである。ネパールでは、障害のある人々への理解不足や不十分な行政サービスなどが要因で、障害のある人々の自立や社会参加の機会は限定されている。こうした状況を改善するため、NDWSでは、自治体から委託を受けて、行政官向けの研修を実施したり、障害のある人に必要な介助機器を提供したり、地道な活動を継続しているが、新型コロナウイルスの影響で、対面での研修が開催できていなかった。

'21年12月になって、感染状況が落ち着き、ラリトプール市の第3地区と協力して、障害理解促進のための研修を開催した。第3地区で働く行政官や看護師、保健師など、障害のある人々と接する機会の多い職種から35名が参加した。「障害とは何か？」「国連の障害者の権利に関する条約について」「関連するネパールの法律」など、基本的な知識に関して理解を深めた後、脳性まひのためのリハビリについて実技を学んだ。これは、あらかじめ参加者から要望があったもので、コロナ禍で市民の外出が制限され、特に脳性まひの人々は一人で移動できないことも多いため、家に閉じこもりがちだという。そこで、第3地区の保健師等が巡回訪問をし、家族に簡単なリハビリを教えたり、健康状態を確認したりすることが計画されている。今回は1日限りの研修であったが、研修は好評で、参加者から他の障害種に関する支援についても学びたいというリクエストがあったため、NDWSでは今後も同地区での研修を継続予定である。

リハビリについて実技を学ぶ参加者たち

障害理解に関する講義は、NDWSの理事メンバーが務めた

マイティの子どもたちのその後

ラリグラス・ジャパン'13秋リポートで、マイティで育ったプリヤさん、サムジャナさん、クリシュナくんの3人が、オーストラリアのNGOのサポートを受け、理系のカレッジへ進学。そして'12年春、見事、医科大学に合格したことをお伝えした。今回は彼らのその後について報告したい。

5年間、猛勉強を続け、'18年春、3人は見事、医師国家資格試験に合格した。現在、3人はカトマンズ市内の私立病院で研修医として働いている。なかでもプリヤさん（26歳）の勤務先は、先進医療を誇る有名病院だ。もともと私立病院は高給とされているが、そこに深夜勤務手当や休日勤務手当が加算され、月額10万円ほどの収入を得ているという。

ネパールの医師や看護師の労働時間は8時間とされている。しかし、研修医や新米医師の場合は驚くほどの長時間労働が当たり前だ。しかも、プリヤさんが配属されたのは救急医療のセクション。外来患者はもとより、緊急時には救急車に同乗して現場に駆け付け、傷病者を手当てすることもある。そこに、新型コロナウイルスのパンデミックが起こり、まさに24時間体制で勤務にあたらなければならないそうだ。

遡ること18年前、父親をAIDSで失った彼女は、妹とともに8歳でマイティに保護された。検査の結果、彼女自身もHIVに感染していることが判明した。ゆえに、激務に彼女の身体が耐えうるかが案じられる。抱える病気については、直属の上司以外には内緒にしているため、弱音を吐けないからだ。医療界であっても未だHIV感染者は差別を受けるのである。

どうか健康に留意し、がんばってほしい。彼女自身の未来のため。そして、彼女の活躍がホスピスの子どもたちにとって、最高のロールモデルになると思うのである。

Information

NEW! EKATRAプロジェクト

レスキュー・ファンデーションでは、保護された女性の中から、スキルが高く、リーダーの資質を持つトレーナーを育成し、彼女たちがシェルターの女性の指導にあたるEKATRAプロジェクトを実施しています。トレーナーには給与が支払われ、コロナ禍においてロックダウンが実施されても、シェルター内でトレーニングを継続できる、雇用創出とエンパワーメントを目的とした持続可能な取り組みです。当会では、このプロジェクトを支援するため、**一口1,000円**として、ご寄付を募集いたします。

コンピューター技術の指導

コロナ対策プロジェクト

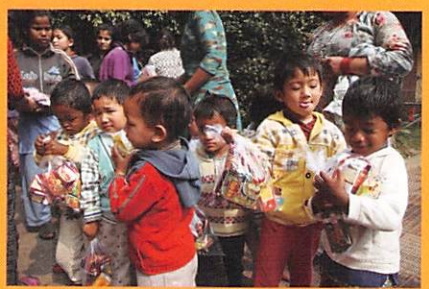
コロナ禍により、社会的弱者はさらなる窮地に追い込まれています。もっとも打撃を受けたのは低所得者層です。

人身売買犯罪が起こる原因の一つは貧困です。自然災害後、人身売買犯罪が増加するといわれていますが、今回のコロナ危機後も女の子たちが児童労働や強制売春の犠牲になる危険が高まると予想されます。

現地のパートナー団体は長年培ってきたノウハウを生かし、素晴らしい活動をしてくれています。そうした彼らの活動が滞ることのないよう、「コロナ対策プロジェクト」としていただいた寄付金は、生活困窮者への支援物資および感染予防の啓発キャンペーンの費用に充てさせていただきます。**一口1,000円**としてご協力をお願いいたします。

お菓子プレゼント

マイティの女性や子どもたち、NDWSの子どもたちは、貧困家庭の出身者が多く、お菓子を食べる機会が滅多にありません。そこで、年2回のお楽しみ企画として、20年以上にわたり、お菓子の詰め合わせプレゼントを続けてまいりました。昨年10月、現地スタッフのラジャさん一家にパッキングをお願いし、無事に配布。今後も継続予定です。**一口1,000円**の寄付をお願いいたします。



振込先はこちら!

郵便振替

口座番号：00100－5－713661
加入者名：トクヒ）ラリグラス ジャパン

※銀行振込の場合
銀行名：ゆうちょ銀行
支店名：0一九（ゼロイチキュ）店（019）
口座番号：当座 0713661

銀行振込

銀行名：三菱UFJ銀行
支店名：麻布支店（店番：570）
口座番号：普通預金 0158054
振込先名義：トクテイヒエイリカツドウホウジン ラリグラスジャパン